令和３（2021）年９月

士別市長　牧　野　勇　司

「市長へのメール」の回答について

拝　啓

晩夏の候　貴方におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申しあげますとともに、日頃より市政の推進に深いご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度「市長への,メール」で、コロナワクチンに関する貴重なご意見をいただきました。

日本で承認され公的接種の対象となっているファイザー社と武田/モデルナ社のmRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンは、臨床試験（第Ⅲ相試験）で、有効性と安全性に関して厳格な評価が行われた上で、薬事承認されているものです。その上で、効果の持続性等を確認するために、現在も、臨床試験が継続されています。

米国FDAのガイダンスでは、安全性について、大規模な臨床試験を元にした緊急使用を許可するために、接種後観察期間の中央値が２ヶ月間あることを一つの要件としています。これは、従来のワクチンの副反応はほとんどが２ヶ月以内に認められることが分かっているためです。

また、日本国内でも、日本人を対象に臨床試験（第Ⅰ/Ⅱ相試験）を実施し、安全性や免疫原性（抗体の産生や細胞性免疫を誘導する性質）があること等が確認された後、特例承認を受けています。

このように、既に、有効性と安全性の評価は丁寧に行われていますが、より長期に有効性や安全性が認められるかどうかについて、引き続き情報収集を行うため、一部の臨床試験について継続して行われています。

御意見にありますリュック・モンタニエ氏は、HIVウイルスの発見により2008年にノーベル生理学･医学賞を受賞した人物ですが、新型コロナウイルスに関して、様々な発言をされていますが、いずれもインタビュー等に答えたものであり、公式な論文として発表されたものはありません。

従いまして、現時点で氏の発言の正当性を立証できるものは無いと判断するところです。

イベルメクチンにつきましては、去る８月30日に製造販売元であるMSD製薬が、

治癒効果や有効性についてエビデンスは存在しない旨の発表を行っています。

合わせて、承認されている用法（駆虫薬）以外におけるイベルメクチンの安全性と有効性を支持するデータは、現時点で存在しないとしています。

イベルメクチンについては、WHO 指針でも「臨床試験での使用を除いて、いかなる重症度の患者に対しても使用を推奨しない」と明記されています。

また副作用については、添付文書によりますと数%に悪心、嘔吐、肝障害、白血球減少などが生じ、重大な副作用として頻度は不明ですが、重篤な薬剤性皮膚障害の一つで高熱が出て全身に紅斑や水疱ができる「中毒性表皮壊死融解症」があるとされています。

日本国内においては、現在治験が進められているところであり、年内の承認申請を目指すとの情報もありますので、今後の動向を見守りたいと存じます。

ワクチン接種に対して様々な御意見があることは承知していますが、日本国内においてワクチン接種を受けることは「権利」ですので、接種を希望する方から接種の機会を奪うことは出来ませんし、同様に接種を希望しない方に強要すべきものでもありません。

従いまして、行政としては引き続きワクチン接種の機会の提供に努めていく所存ですのでご理解を頂ければ幸いです。

コロナ封じ込めに最も重要なことは感染リスクを避けることです。マスクの着用やこまめな手指消毒、混雑した場所を避ける等の基本的な感染予防を市民全員で行うことが最善策であると考えますので、引き続き感染予防へのご理解とご協力をお願いいたします。

敬　具

・担当課
健康福祉部保健福祉センター
士別市東11条５丁目　電話22-2400（直通）
・広聴担当課
市民自治部自治環境課
士別市東６条４丁目　電話26-7736（直通）